

Do CL Column

行動していると
—CL を実践し続ける生徒さん—

なかた かなえ



2017年11月27日

悪い事ばかりじゃなくて、必ず嬉しいなって感じる出来事が起こるし、それは行動して、触れ合う事で起きるささやかな奇跡だと思います。悪いと思う事だって、ある意味では奇跡だと思います。

うちの犬のハナは、17歳です。目は最初の頃から見えません。それでも元気に生活し、しょっちゅう海に連れて目の覚めるような青空の下で貝を夢中で掘っているのを見て大笑いした10年以上前の事が昨日の事のように癒された時、ハナは隣に居ました。不登校児だった私はハナに支えられていました。家族で山形に旅行に連れて行ったりもしました。ハナは今も昔も家族皆に好かれています。

でも最近めっきり弱ってきて、余り量を食べなくなりました。それどころか殆ど食べてくれない日もあるそうで、痩せてきて歩き方もおぼつかず、そんな姿は17年一緒に生きている家族は見つめるとなんだか急に寂しくなるのです。

それでもちょくちょく実家に顔を出すと、尻尾を振ってかけよって例によってダンスを踊る様な喜び方をしてくれ、そんな時心に灯火が灯ります。今日実家に行くと、余り食べないので、母がお芋を蒸して潰して牛乳を混ぜると犬はよく食べると職場の友達から聞いたことを実行してみたところ、パクパク食べたので嬉しくて堪りませんでした。その後ももっと頂戴とキッチンでお座りをしていたので、ガムもあげました。

その後、観ているとなんとリビングで粗相を始めました。でも、廊下に連れて行ったりしたら引っ込んだじゃうし〜とそのまま観ていたら、良い〜うんち。普段なら困ることも、健康に生きてるという証が嬉しかった。片付けて除菌して、母と笑いました。食べる。排泄する。寝息を立てる。そんな1つ1つが、嬉しくてありがたうと感じるなら、老いも悪くない気がしました。

ハナ、ありがとう。これからも元気でハナダンスしてね。

お話し会

12月30日

図書館に勤めてから、子供達に絵本を読み聞かせる「お話し会」という企画を毎週やっていることを知りました。私は20代の頃、CLの小木先生の関係で知り合えた元アナウンサーの大山先生に数年間朗読を勉強させて貰っていたので、やりたいと強く願っていました。しかし、頭の中で障がい者雇用の人にそんな仕事、任せて貰えないんじゃないかな…とネガティブな想像が浮かび、離れず、どうしてもやらせて貰えませんかと言いだせませんでした。しかしどうにかやりたい気持ちを伝えたいと考えて、私、朗読を習ってたんです、今度私の朗読を聞いて貰えませんか？などと働き始めた頃に言ったりしてみたものの、もし断られたらと傷付くのが怖くて、怖くて、はっきりやりたいと言わないものだから、上手く伝わらないで終わりました。

しかし働いてから1年9ヶ月経ち、急に勇気が湧きました。行動しなきゃ失敗もしないけど、成功もしないぞ。と感じたのです。職員の人に、少しお時間良いですか？と言い、「私、朗読を数年習ってたんです。頑張るのでお話し会、私もやらせて貰えませんか」と言ってみたら、「ああ、良いよ良いよ。お話し会の手順とか流れを教えるから。話し手の人数が少なかったから、助かるよ。中田さんは一応嘱託さんだし」と予想に反して物凄く優しい言葉を掛けて貰えました。一緒に働いている人達も、「頑張ってるね。良かったねえ〜！」と喜んでくれて、周りが冷たい事を言って来たら…と怖がっていた自分を凄く恥ずかしく感じました。



それから、読む本を決めると、毎日の様に練習しました。不安になれば練習して、不安には練習しない事を私はもう学べていたので、自分で選んだ物事に向き合う強さが私の中に生まれ始めているのだと感じました。

当日は、やっぱり私はお腹がゴロゴロしたりして、身体は正直だなあと痛感しましたが、部屋に入ると子供達が膝に乗って来たりしてくれた事で和んで、読み始めるとそんなにあがらず読め、無事にお話し会を終えると、職員さんからも誉めてもらえ、次も頑張ろう。と、チャレンジさせてくれた職場の人達に感謝しました。

12月にもまたお話し会の担当をして、子供達のお母さん方も入るのでとても緊張しましたが、不安には練習、練習、練習なのだなと思いました。

マイナスの気持ちも、プラスの気持ちも持って良くて、大切なのは希望する事に対して怖くてもそれが心からの希望なら、怖いまま真っ直ぐに行動して行く事で、そこに新しい自分が生まれるのだなど感じています。頭の中に結果は存在しなくて、**頭の中には想像や、雑念が大半で、目に見える結果は常に外の世界にあるのだ**と思います。結果を見て自分を確認したら、後は行動という実りの期待出来る努力を出来るというのは、中々贅沢な幸せだなとふと気付きました。

失敗と成功

2018年1月8日

年末から年明けの数日にかけて、図書館の利用者に配るカレンダーのパソコンでの製作を任せられました。パソコンは余り得意ではないのですが、去年やった事なので思ったより割とさくさく出来て、嬉しくなった私は早く仕上げようとスピードを上げました。早ければ早いほど良い気がしてしまったのです。何回も確認したつもりでした。しかし、3月の分を最終チェックしていないのを頭の片隅で分かっていたのに、大丈夫だろうなと勝手に思ってそのまま「出来ました」と先輩に報告してしまいました。そして配布用の印刷した沢山のカレンダーをカッターで切っていたところ、嫌な予感がして3月の欄を見てみると、19日の月曜日は休みなのに開館にできてしまっていました。軽くパニックになって慌てて先輩に謝り、色んな人に米つきバツタの様に謝る私。余りの謝りように軽い笑みを浮かべる上司。さて、落ち込んでそればかりを考えていましたが、次の仕事は、次の波です。

一所懸命集中し直して、次はこれに集中。と、回送本の予約番号のチェックをしていると、同姓同名の人が居るのを、番号が違うので気付きました。これはゴムでまとめちゃダメですね。と言うと先輩に、「良く気付いたねえ」と微笑みながら褒めて貰えました。

なすべきことは、次の瞬間、瞬間に常にあるのです。時々失敗して時々成功して、色んな事をこれから学べるのだったら、失敗も成功も沢山経験出来るのなら、いつか素敵な人になれるのかも知れないと失敗の後の成功に勇気が一つ湧きました。

(千葉県千葉市CLインストラクター/小木晴代：相談室パートナー h-ogis8doicl@tbz.t-com.ne.jp)